

## 24 当院透析室での COVID-19 クラスタ発生時における対応

JA 長野厚生連 浅間南麓こもろ医療センター 臨床工学科  
甘利卓也 中島陸 大池智 浅野勝紀 饗場智明

### 【はじめに】

全世界で COVID-19 による感染症が拡大する中、当院は地域の重点医療機関として感染患者の対応を担ってきた。当院透析室においても、COVID-19 感染者の透析治療を行ってきたが、2023 年 8 月にクラスタが発生したため、その状況と対応について報告する。

### 【背景】

当院透析室は 33 床（個室 1 床）のベッドを有し、患者 90 名に対して職員 19 名で 1 日 2 クールの透析治療を行っている。感染対策として、職員と患者には体温測定と体調の変化があった場合は来院前に電話連絡をするよう指導してきた。

### 【感染状況】

2023 年 8 月 10 日職員 1 名が勤務中に体調不良を訴えた為、検査を実施したところ、COVID-19 陽性が判明。2 日後には、職員 3 名の感染が確認され、最終的に 8 月 16 日までの 6 日間で職員 10 名、患者 7 名が感染した。（図 1）



図 1 臨床工学科 COVID-19 感染状況

### 【対応】

1. 感染者との空間的隔離が必要なため、感染管理認定看護師と協力して透析室の奥側 6 床を COVID-19 専用ベッドとして扱った。
2. 準感染区域としてイエローゾーンを設け、個人防護具の着脱エリアとして使用し、必要な物品やメディカルペール、手指消毒剤の配置を行った。
3. レッドゾーンは感染区域としてパーティションで囲い、出入口を作成。中央にクリーンパーティションを 3 台設置し、換気能力を向上させ、ワンフロアでの感染リスク軽減を図った。また、カウンターがある場所は壁が無く、隔離をする必要があるため、ビニールシートを使用し、間仕切りをした。
4. 感染者への個人防護具はフル PPE 着用で対応し、なるべく感染歴のある職員が感染者に携わった。また、使用物品は感染者専用とし、使用後の破棄できない物品は除菌クロスにて清拭を行った。
5. 感染者入室時の動線確保は外来患者と別の動線を設けるために、事前に感染者へ救急車搬入口前に集合するよう伝えた。感染者は外来患者と接触することが無いように先導職員が救急車搬入口前から同行し、職員専用通路を利用して透析室まで誘導した。また、透析室の裏側から入室してもらい、更衣も別室にて対応した。
6. 時間的隔離としては、感染者の透析を火木土で対応し、入室時間を非感染者は 7:30 から 9:00、感染者は 9:00 以降とした。なお、感染者は全員軽症であったため、外来で対応した。

7. 勤務者が通常時の半分以下になることもあり、感染者の透析業務と通常業務を行うことが困難な状況となった。その状況を改善するため、病院管理者が透析室へ人員を補填するよう、他部署に協力を求め、毎日、病棟勤務の看護師4,5名と、看護部長などの管理職2名の応援を得た。

#### 【まとめ】

8月10日から少人数での業務体制が強いられ、試行錯誤しながら感染者の対応をしてきたが、8月17日以降、患者からの新たな感染者を出すことなく8月23日に感染者対応が解除となった。

透析室内でのクラスター発生は初めての経験だが、各部署との連携により、ゾーニングや患者の動線確保を行うことで、14日間で収束することができた。今後も様々な感染症が流行する可能性が考えられるため、今回の経験を活かすとともに、一人ひとりが感染対策への正しい知識を持ち、感染症予防に努めたい。

著者の利益相反(conflict of interest:COI)開示：本論文に関連して特に申告なし。